

日中科学技術

No. 169

2019. 7. 11

発行所 日中科学技術交流協会

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 3-1 横山町ダイカンプラザ 302 号

E-mail : jcstea2019@gmail.com (nagakiya@nifty.com)URL : <http://jcst.in.coocan.jp/> 電話 : 090 (7629) 6260

特定非営利活動法人日中科学技術交流協会の解散と 一般社団法人日中科学技術交流協会の設立について

特定非営利活動法人日中科学技術交流協会理事長 清算人 一般社団法人日中科学技術交流協会 代表理事 会長
有山 正孝



2019 年春、日中科学技術交流協会は特定非営利活動法人から一般社団法人日中科学技術交流協会へ組織を変更しました。その過程について以下にご説明申し上げます。

予てよりお諮りして参りましたように、諸般の事情を考慮して当協会を特定非営利活動法人から一般社団法人に作りかえる件について、昨年の第 17 回通常総会でその方向をご承認いただき、去る 2 月 27 日開催の臨時総会で特定非営利活動法人日中科学技術交流協会の解散を決議していただきました。別稿の同臨時総会議事録をご参照ください。

この決議を受けて、先ず東京法務局において 3 月 18 日付で解散を登記し、3 月 22 日に東京都に解散届を提出し、清算の過程に入りました。その第一歩として同日、解散公告の官報掲載を申し込みました。解散公告は 4 月 8 日発行の官報に掲載されましたが、法の定めによりそれから 2 ヶ月間は出て来るかも知れない債権者の申し出を待たねばなりません。6 月 7 日でその期間が終了しましたので、ただ今、最終的な清算を行っております。その結果、残余財産があれば総会議決に従ってこれを特定非営利活動法人水環境技術研究会に引き渡して残余財産をゼロとし、最後に法務局に清算終了登記を行い、これを証する登記事項証明書を添えて東京都に清算終了届出書を提出しますと、この時点で日中科学技術交流協会の特定非営利活動法人としての法人格は完全に消滅します。

他方、これと並行して一般社団法人設立の手続きを進めて参りました。この作業は実印の押印、印鑑証明書や住民票の写しの提出など煩瑣な手続きを要しますので、一般に行われている手段として法の許す範囲の極力少ない人数で進めさせていただきました。

4 月 2 日、公証役場に初めて定款案を提示、数回足を運んで遣り取りの上、公証人の指摘に従って一部を修正し、4 月 23 日、最終的に認証を受けました。長い連休を挟んで 5 月 15 日、設立時社員・設立時理事の会合を開いて設立時代表理事の選定を行い、翌 5 月 16 日、認証済みの定款を添えて東京法務局に登記を申請、同日付で一般社団法人日中科学技術交流協会が誕生しました。従って現在は一般社団法人と清算中の特定非営利活動法人が並列に存在している状態にあります。

一般社団法人に移行しても協会の設立趣旨、事業目的、活動等には何等変更はありません。会員の皆様には新しい法人の会員になっていただくこととなりますが、その手続きにお手を煩わすことのないようにいたします。なお同封の「2019 年度会費の納入についてのお願い」をご一読いただき、なるべく早目に今年度会費をくださいますようお願い申し上げます。

一般社団法人は特定非営利活動法人と比較して活動の自由度が増します。昨今、日中関係は複雑な局面を迎えており、当協会の活動にも少なからず影響が出ておりますが、草の根の日中交流の在り方に対する時代の要請の変化を考慮して、時代に相応しい活動を模索し展開して参りたいと考えておりますので、今後ともよろしくご指導・ご支援の程をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人日中科学技術交流協会社員総会議事録

1. 開催日時

平成31年2月27日午後2時

1. 開催場所

東京大学山上会館1階
かどや個室第4号
東京都文京区本郷7丁目3番1号

1. 社員総数 54名

1. 出席した社員数 42名

1. 審議事項

当法人の解散、清算人選任及び残余財産帰属先について

1. 議長選任の経過

定刻に至り司会者永崎隆雄は開会を宣言し、本日の社員総会は定款所定数を満たしたので有効に成立した旨を告げ、議長の選任方法を諮ったところ、満場一致をもって有山正孝が議長に選任された。続いて議長から挨拶の後、議案の審議に入った。

1. 議事の経過の概要及び議決の結果

第1号議案 当法人解散の件

議長は、諸般の事情により当法人を解散したい旨を議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく可決決定した。

第2号議案 清算人選任の件

議長は、清算人を選任する必要がある旨を述べ、議場に諮ったところ、満場一致をもって下記の者が選任された。なお、被選任者は席上、その就任を承諾した。

東京都八王子市大塚58番地57有山正孝

東京都中央区日本橋人形町1丁目2番12-901号 永崎隆雄
第3号議案 残余財産帰属先の件

議長は、残余財産の帰属先を決議する必要があることを述べ、議場に諮ったところ、満場一致をもって下記に帰属せしめることを可決決定した。

残余財産の帰属先

特定非営利活動法人水環境技術研究会

1. 議事録署名人の選任に関する事項

議長は、次の者を議事録署名人に選任したい旨を述べ、これを議場に諮ったところ、満場一致をもって次の者が議事録署名人に選任された

議事録署名人 紺野大介

議事録署名人 永崎隆雄

以上をもって社員総会の全ての議案の審議を終了したので、議長は閉会を宣言し、午後2時30分散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人に於いて次に記名押印する
平成31年2月27日

特定非営利活動法人日中科学技術交流協会

議長 有山正孝 印

議事録署名人 紺野大介 印

議事録署名人 永崎隆雄 印

2019年度中国人留学生研究奨励賞について

副理事長 藤崎博也

日中科学技術交流協会が設立されたのは1977年12月ですが、その初期に積極的に活動しておられた野上茂吉郎氏（東大教授、原子核理論の研究者）が亡くなられた際、ご遺族から協会にご寄付を頂きました。

当時の役員の方々がこの寄付金を最も有効に活用する方法を種々検討された結果、これを基に寄付を募って基金を設け、それにより1987年から中国人留学生研究奨励賞が設けられ、わが国の大学院博士課程に留学し優秀な研究成果をあげた中国人留学生を対象として、毎年授与されてきました。

この賞は現在にいたるまで中断することなく授与され、2018年度までの31年間の受賞者数は142名に達し日中両国の科学技術者間の交流に永続的に貢献してきました。

この賞は日中間の科学技術交流の再興と発展に尽力された先人たちの心のこもったものですので、新たに発足した一般社団法人の事業として継続することが7月10日の理事会で決定されました。受賞候補者の推薦者は会員に限られるので、会員の皆様には、適格と思われる優秀な候補者があればぜひご推薦をお願いします。

2019 年度 中国人留学生研究奨励賞 受賞候補者募集

本年度は、下記の要領により 3 件の中国人留学生研究奨励賞の受賞候補者を募集します。
推薦された候補者の中から、選考委員会が 3 名の受賞者を選出し、研究奨励賞を授与します。

記

1. 候補者の資格

日本の大学・研究所等の研究機関に在籍する中国人留学生で、大学院（修士、博士）課程またはそれと同等程度ないしそれ以上のレベルの研究を行っており、日本国内または国外の学会で 2 回以上の口頭発表を行い、それらを 1 篇以上の論文として印刷公表（印刷中でもよい）している者（有給研究者は除くが、推薦受付締切り期日に博士号取得後 2 年以内の者はこの限りではない）。

2. 提出書類

以下の原本 1 部とコピー 2 部（計 3 部）を本会会長宛に郵送する。書類はすべて日本語で作成すること。

(1) 推薦書（推薦者は本会会員であることが必要）

推薦者の氏名、所属、連絡先住所、電話、Fax、E-mail を明記。

(2) 候補者の履歴書

氏名（漢字、フリガナ、および中国式ローマ字 pinyin で表記）、生年月日、出身地、所属機関（所在地、電話、Fax）、現住所、電話、E-mail、学歴、職歴（中国および日本において職歴があれば明記）、旅券用と同じサイズの写真を貼付すること。

(3) 候補者の日本留学中の業績

①和文で 20 字以内のタイトルを付け、その要約を 2000 字以内にまとめたもの。

②誌上発表論文のコピー（または別刷。印刷中ならば原稿または校正刷）、および口頭発表論文（予稿 前刷等）のコピー、それらの一覧リスト。

(4) 候補者の指導教官の氏名、職、所属（住所、電話、Fax、E-mail）

3. 推薦受付締切り期日：2019 年 9 月 30 日（同日の郵便消印があれば有効）

4. 奨励賞の内容：賞状および副賞 10 万円を、選出された各留学生に授与する。

5. 授与期日：2020 年 1 月

上記 3 件の奨励賞は、会員有志からのご寄付を原資とするもので、研究分野は特定しておりません。

一般社団法人 日中科学技術交流協会
会長 有山 正孝

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町 3-1 横山町

ダイカンプラザ 302 号室

E-mail : jcstea2019@gmail.com (nagakiya@nifty.com)

TEL: 090-7629-6260

孔鉉佑大使着任レセプション

理事長 有山 正孝

去る 5 月に着任された新任の中華人民共和国特命全権大使孔鉉佑氏の着任レセプションが 7 月 2 日 18 時よりホテルニューオータニ鶴の間に於いて開催され、約一千名の招待者が参集した。当協会からは理事長が出席した。

孔大使は夫人と共に壇上に立ち、流暢な日本語で挨拶、過日開催された G20 に際しての日中首脳会談の成果を踏まえ、日本政府および各界と協力して両国指導者の合意事項を確実に実行に移し、日中関係を正しい軌道に沿って絶えず前進させる努力をしたいと決意を述べた。更に日中関係の今日は両国の数世代に亘る有識者の多大な努力の賜物であり、これを大切に、継承発展させることは我々世代の責務であり、新しい時代に相応しい日中関係を構築するために相携え先人に恥じぬ貢献をしようではないかと呼びかけた。

訃報

当協会監事 梶井 功 (いそし) 先生は去る 7 月 2 日、ご逝去になりました。93 歳でした。

梶井先生は佐渡のお生まれで農政学を専門とされ、この分野における傑出した研究者として大きな指導力を発揮されました。鹿児島大学農学部助教授、東京農工大学農学部教授、同農学部長、同学長をご歴任、その傍ら第 15 期・第 16 期の日本学術会議会員を務められ、また農業分野における日中交流にも尽力されました。当協会の監事には 2001 年 7 月にご就任、以来今日まで 9 期 18 年に亘ってお勤めいただきました。穏やかさの中に鋭さ強さを秘めたお人柄で、昨年 5 月当協会の会計監査の際、ご高齢にも拘わらず八王子市のご自宅からお一人で電車に乗っておいでになるほどお元気でした。今年に入ってご体調がすぐれぬと伺っていましたが、ご逝去の報に接し悲しみに耐えませんが、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

本会報の第 1 号は、「日中科学技術交流協会事務局連絡報」第 1 号として、1978(昭和 53)年 2 月 20 日に発行されている。B5 判 1 枚裏表 2 ページだけの質素な事務連絡のための冊子であった。同年 10 月 20 日発行の (第 5 号からやっと 2 枚表裏 4 ページに拡張された。第 7 号(1979 年 2 月 20 日発行)以後は、題字が「日中科学技術」に変更され、今号(169 号)まで 40 年間続いている。

その間、協会の組織は任意団体から特定非営利活動法人に 2006 年 5 月 2 日に替わり、次いでこの度 2019 年 5 月 16 日に一般社団法人に変更された。本号は、特定非営利活動法人日中科学技術交流協会の会報としての最終号であり、次号からは一般社団法人日中科学技術交流協会の会報として発行される。

今後ともご愛読いただきますようお願い申し上げます。

副理事長 山脇 道夫

目次

1. 特定非営利活動法人日中科学技術交流協会の解散と一般社団法人日中科学技術交流協会の設立について
理事長 有山 正孝 1 頁
2. 特定非営利活動法人日中科学技術交流協会臨時社員総会議事録 2 頁
3. 2019 年度中国人留学生研究奨励賞について
副理事長 藤崎 博也 2 頁
4. 2019 年度中国人留学生研究奨励賞受賞候補者募集要項 3 頁
5. 孔鉉佑大使着任レセプション
理事長 有山 正孝 4 頁
6. 訃報
理事長 有山 正孝 4 頁
7. 編集後記
副理事長 山脇 道夫 4 頁